

〈草の根〉

畑の草取りをしていたら、まだ草丈は低いのに根が地中にびっしり生えて土がごっそり付いてきた。まさに網の目状態に土に入り込み、地上部をしっかりと支えていた。雑草魂なんて言う言葉があるが、この根っこを見るとなげける。右の草はハルジオン、どこにでも生える草だ。足で蹴飛ばせば花や茎はすぐに千切れるが、どっこい、これだけ根を張っていれば次々に新芽が出てきて枯れることはない。土を落とし、水で洗って乾かしたらほそ〜い根どうしが絡みついて容易に引き離せない。無理にほどこうとすると根が細いので簡単に切れてしまう。櫛で梳きたい衝動に駆られるが、多分櫛の歯に毛根が絡まってしまっただろう。この根を大地にしっかり張って雨にも風にも人間にも負けないであちこちに仲間を増やしていく。タンポポと同じように綿毛の落下傘に乗って遠くまでタネを飛ばせるので、どこにでも生えてしまう。この強さ、生命力にあやかりたい。

もう一つの草は、スズメノカタビラ。イネ科の草で踏んでも刈り込んでもすぐにまた生えてきて、ほぼ1年中畑のどこかで見られる。農家の人に厄介者扱いされる雑草の代表格。でもこれだけ土中に根を張っているということは、その部分は土が硬くならないから敢えて根を残して地上部だけ刈るという人もいる。草を敵に回すか味方につけるかここは考えどころである。この根っこ、黒く染めて髪の毛代わりに使いたい(笑)。

